

# 地理オリンピックへの招待

## —公式ガイドブック・問題集—

掲載問題等カラー図版および資料  
(修正事項を含む)

ガイドブック掲載の写真・画像の一部です。  
問や解説等はガイドブックをご覧ください。  
ガイドブックは書店および下記サイトより購入できます。

<http://www.kokon.co.jp/book/b373671.html>



# 誤植修正

校正ミスです。修正お願いします。

申し訳ありませんがこれによる返品お取替えは致しません。

P11 問3

(問題文) 誤: 京都市内 正: 京都近郊

P12 解説文中の 市内 も 近郊 に修正

P28

(解説文) 誤 ナイジェリア 正 コンゴ民主共和国

P30

(解説文) 下から4行目 誤 ‥出題しているとこともポイントである。

正 ‥出題していることもポイントである。

P36 問15

(解答) 誤 ② 正 ③

P38 問16

(解答) 誤 ② 正 ①

# 質問事項と回答

## P8 問1の解説文

①はグラナダではなくセビリアではないか？

このスケールの地図の正確さから考えると、セビリアとも考えられる。いずれにしても、現在スペインの住民はカトリックを中心であり、街中にモスクが複数林立する景観をみることはできない。出題側としては、このスケールの地図でセビリアかグラナダかを判別させることはしない。

## 第2章 過去問にチャレンジ

### 第一次試験 – マルチメディア試験



# P7 問1

(2009年8月撮影)

# P9 問2

(2016年9月撮影)





P11 問3

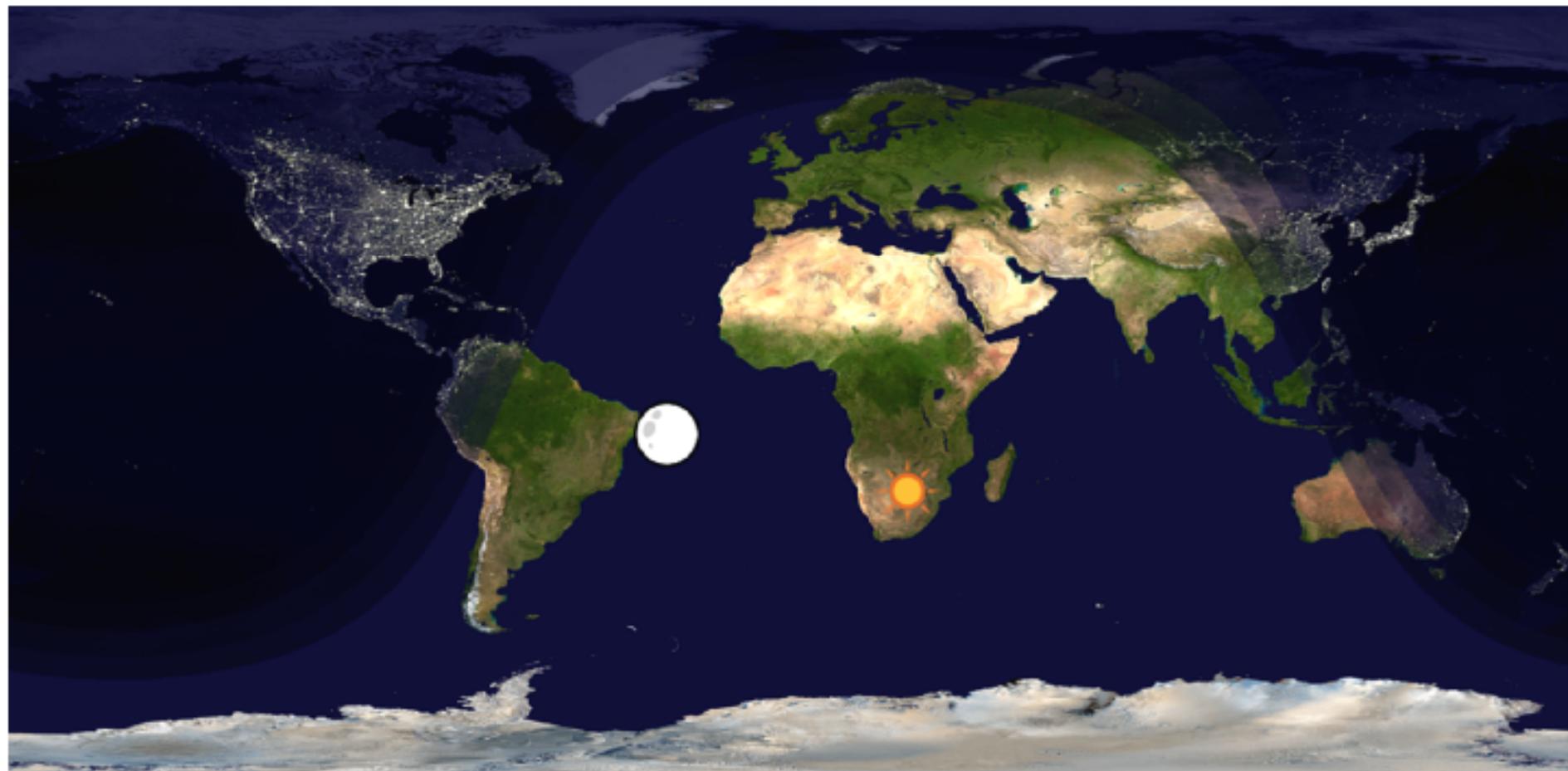
(2015年撮影)

問題文訂正 (誤) 京都市内 (正) 京都近郊



P13 問4

(2013年8月撮影)

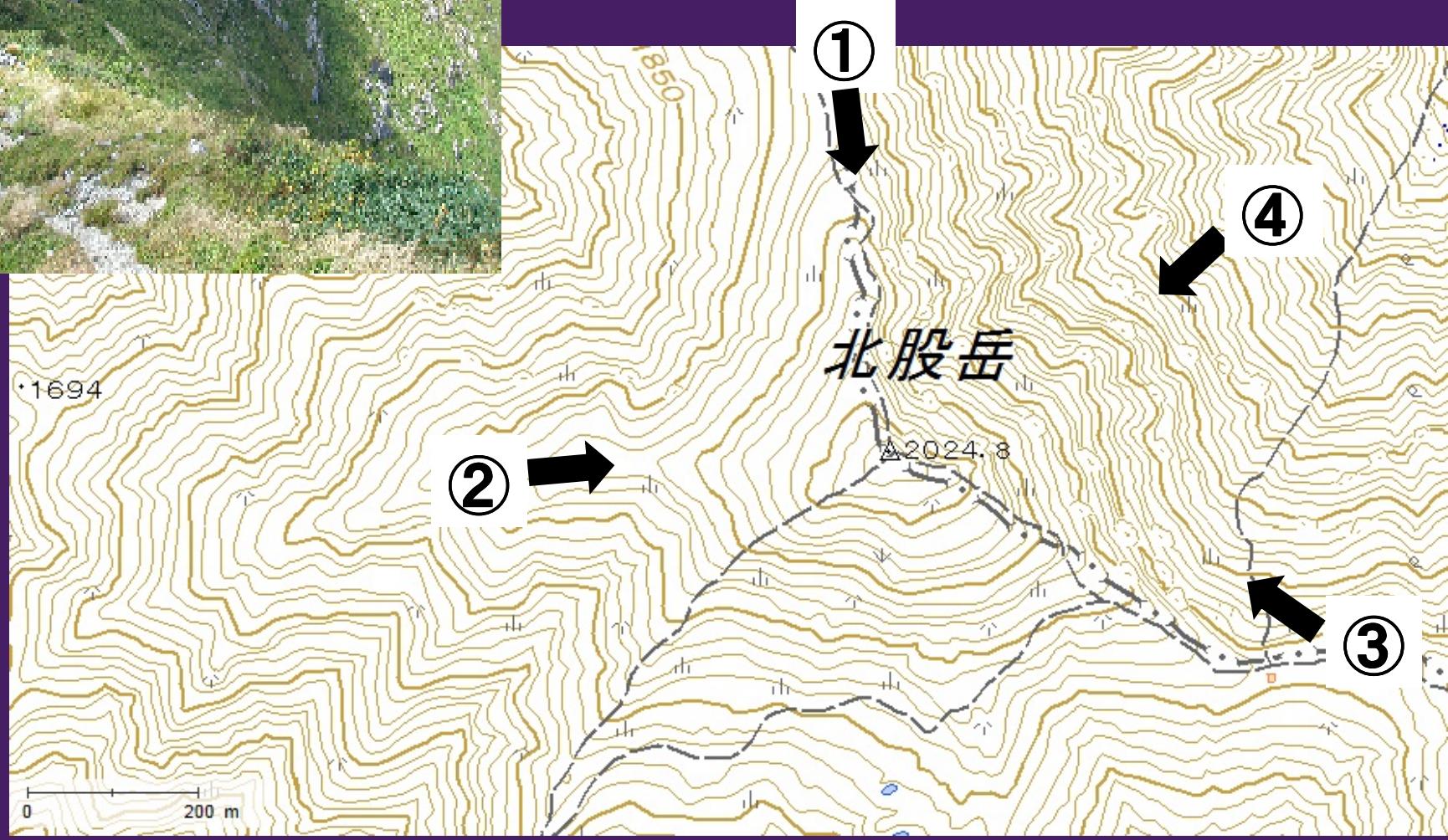


P15 問5

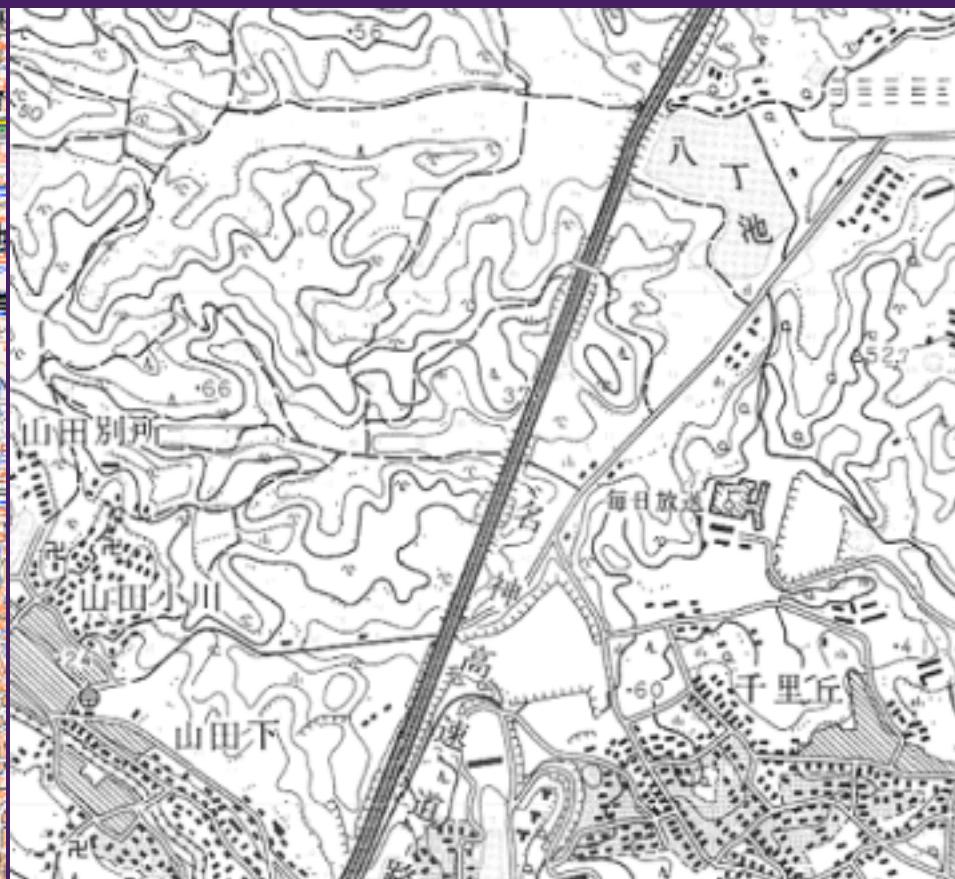
出所 <https://www.timeanddate.com/worldclock/sunearth.html>



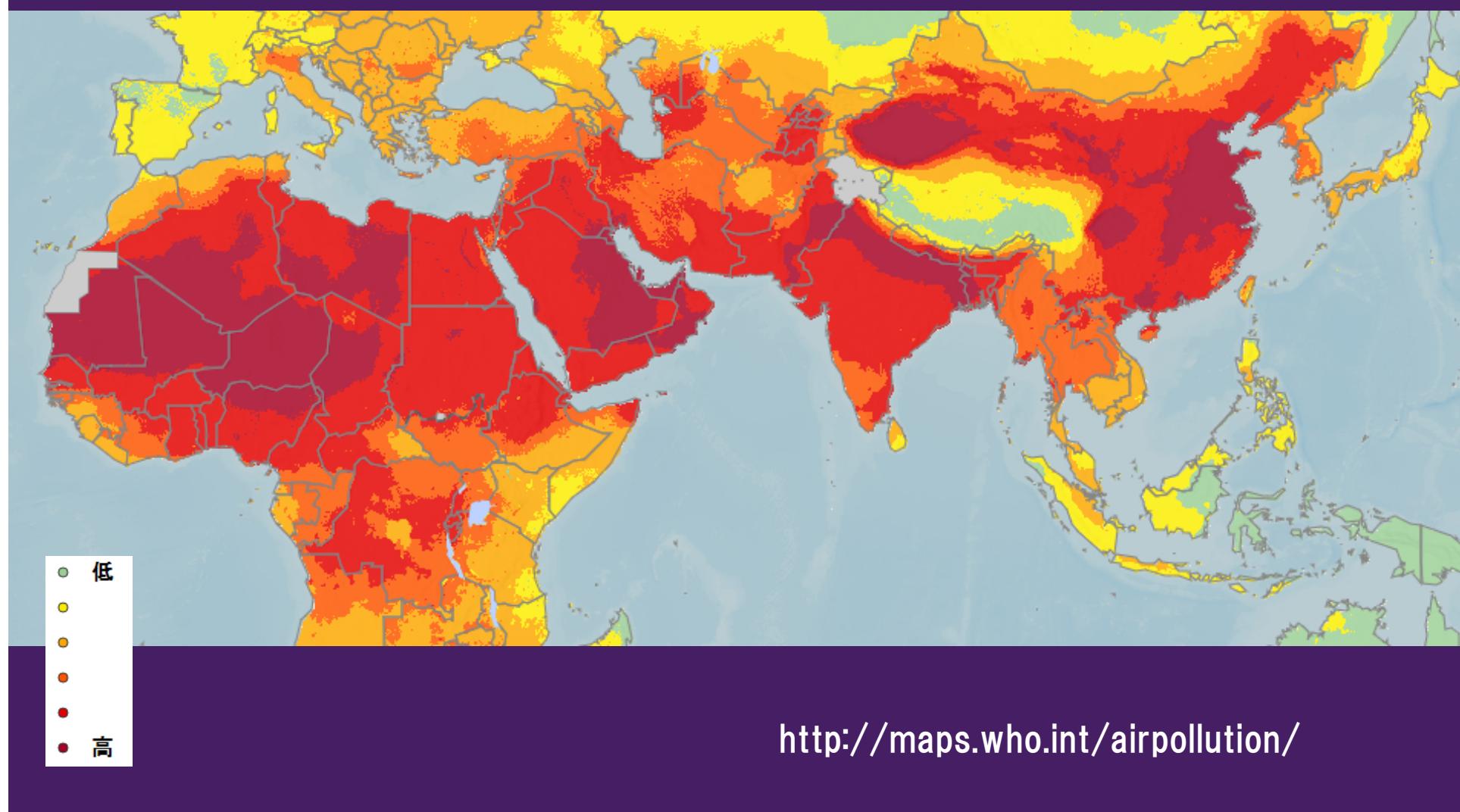
## P31 問13



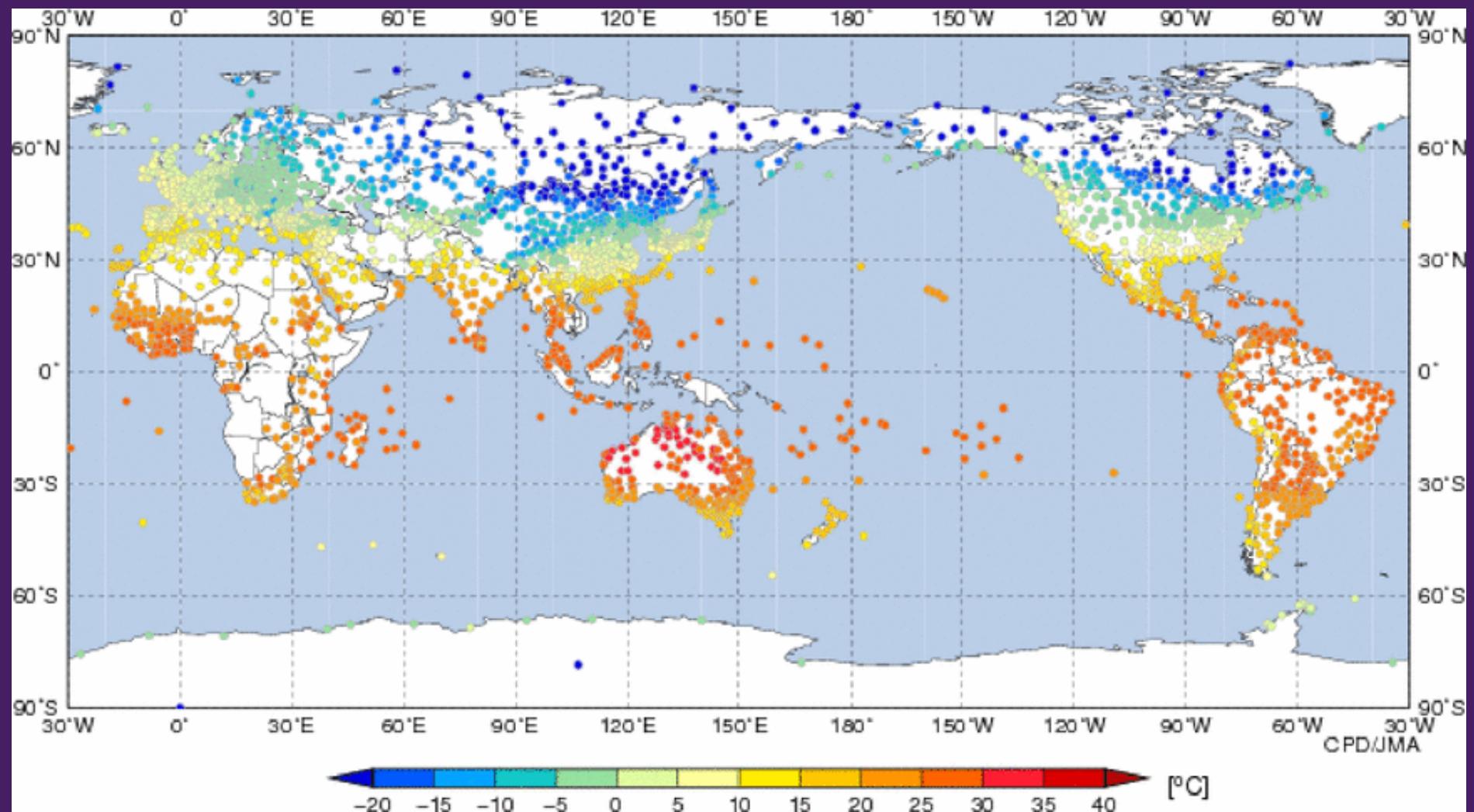
# P33 問14



# P47 問21

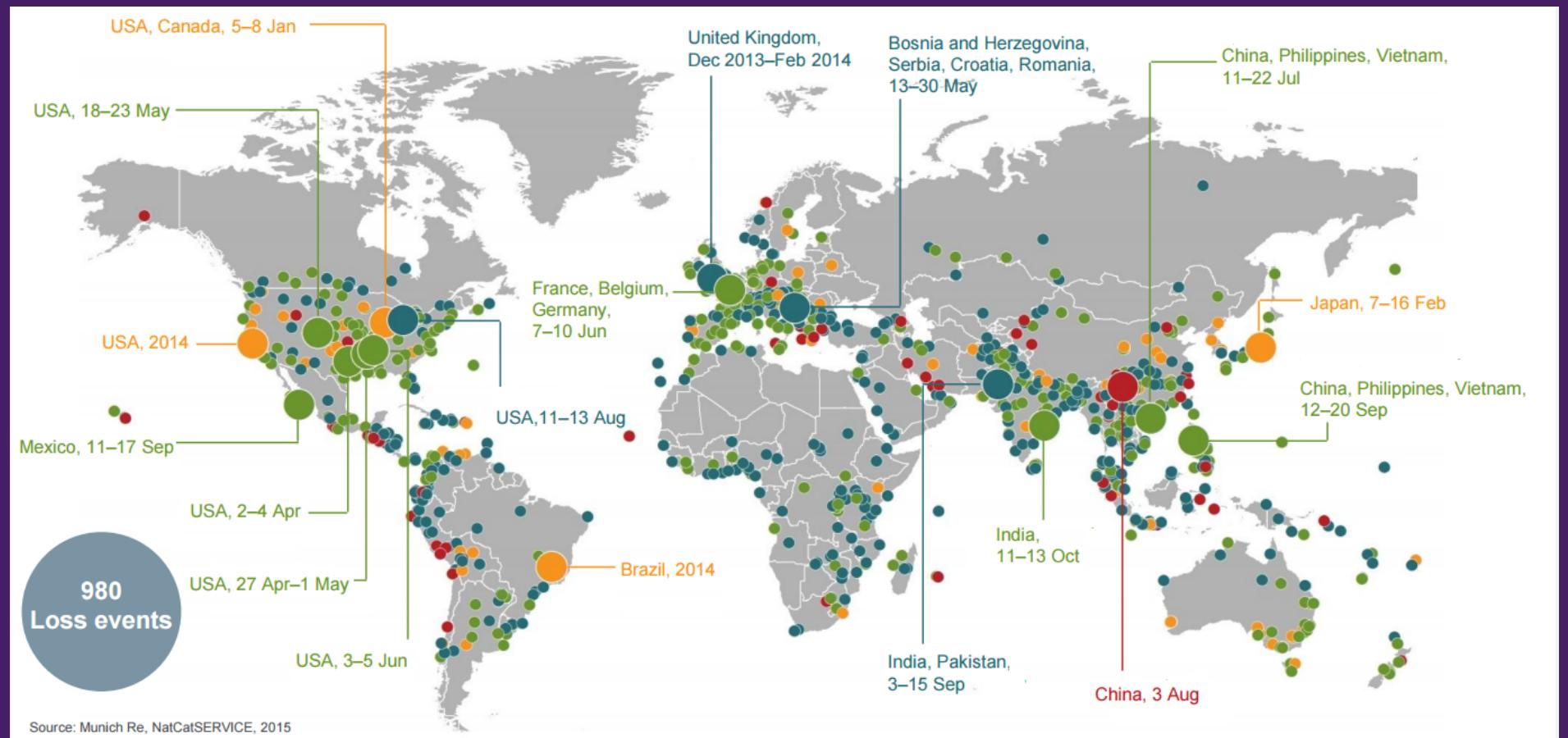


# P49 問22



<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climfig/?tm=normal&el=tn>

# P55 Q25

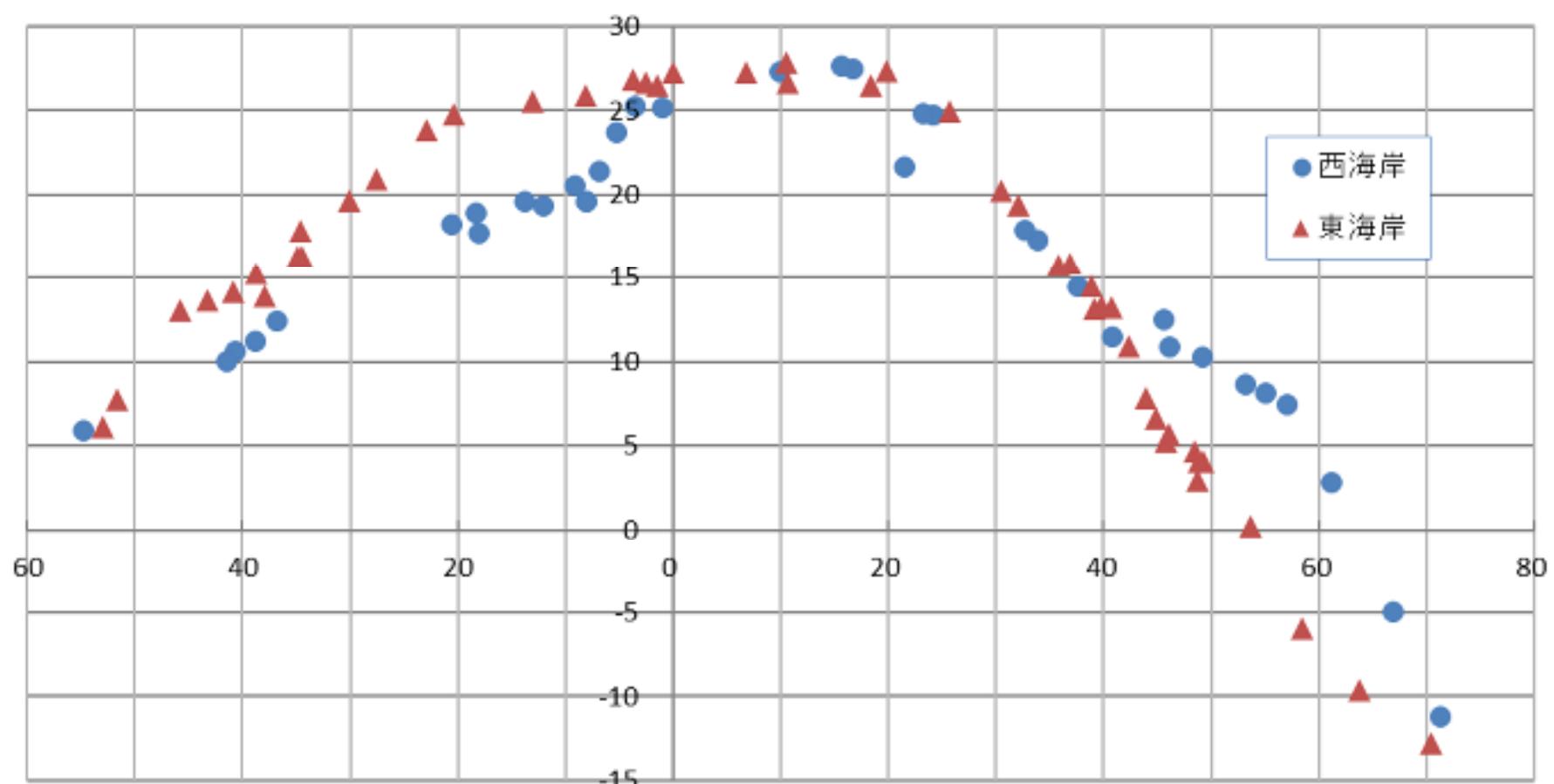


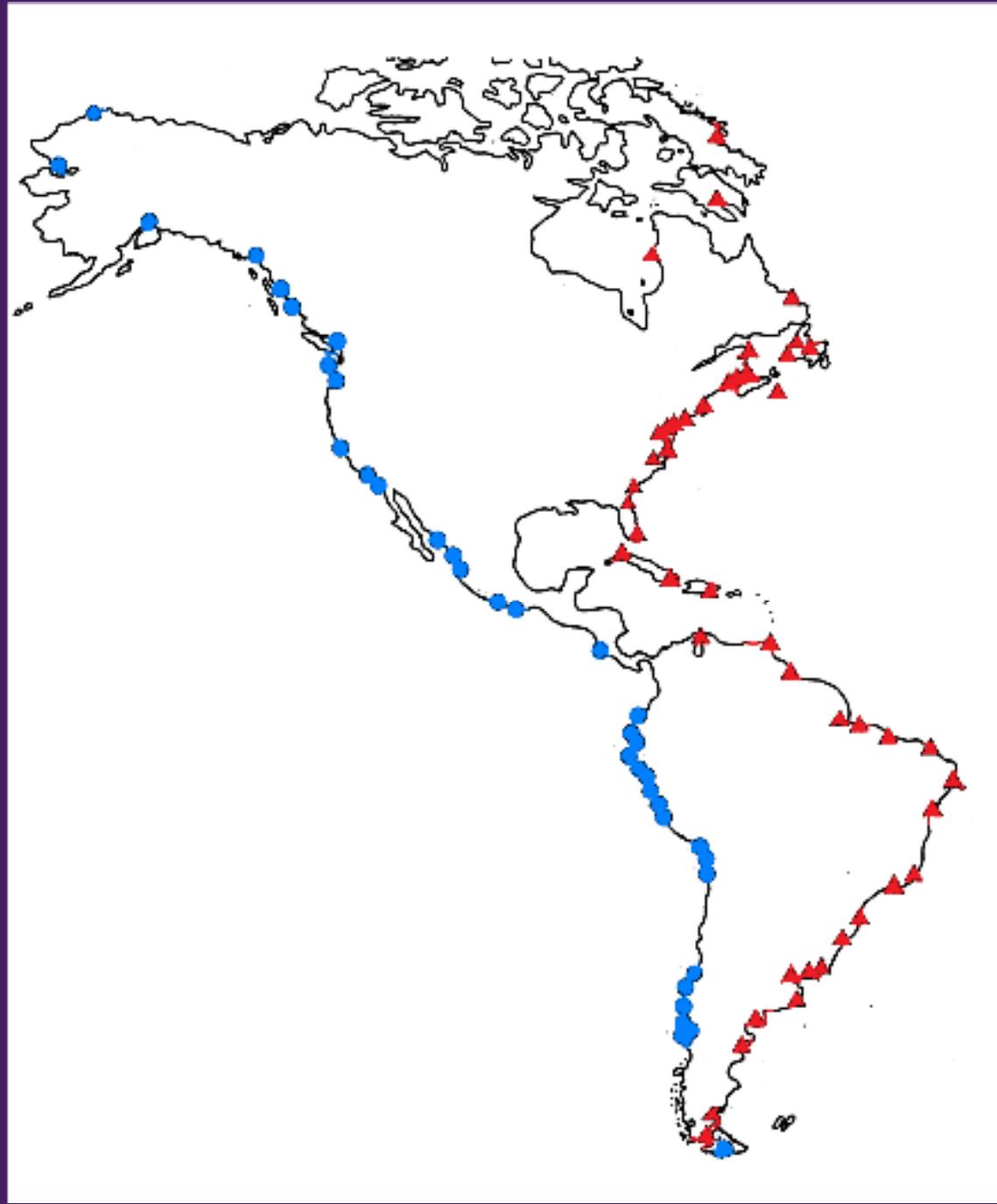
Source: <http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/Munich-Re-World-map-Natural-catastrophes-2014.pdf>

## 第2章 過去問にチャレンジ

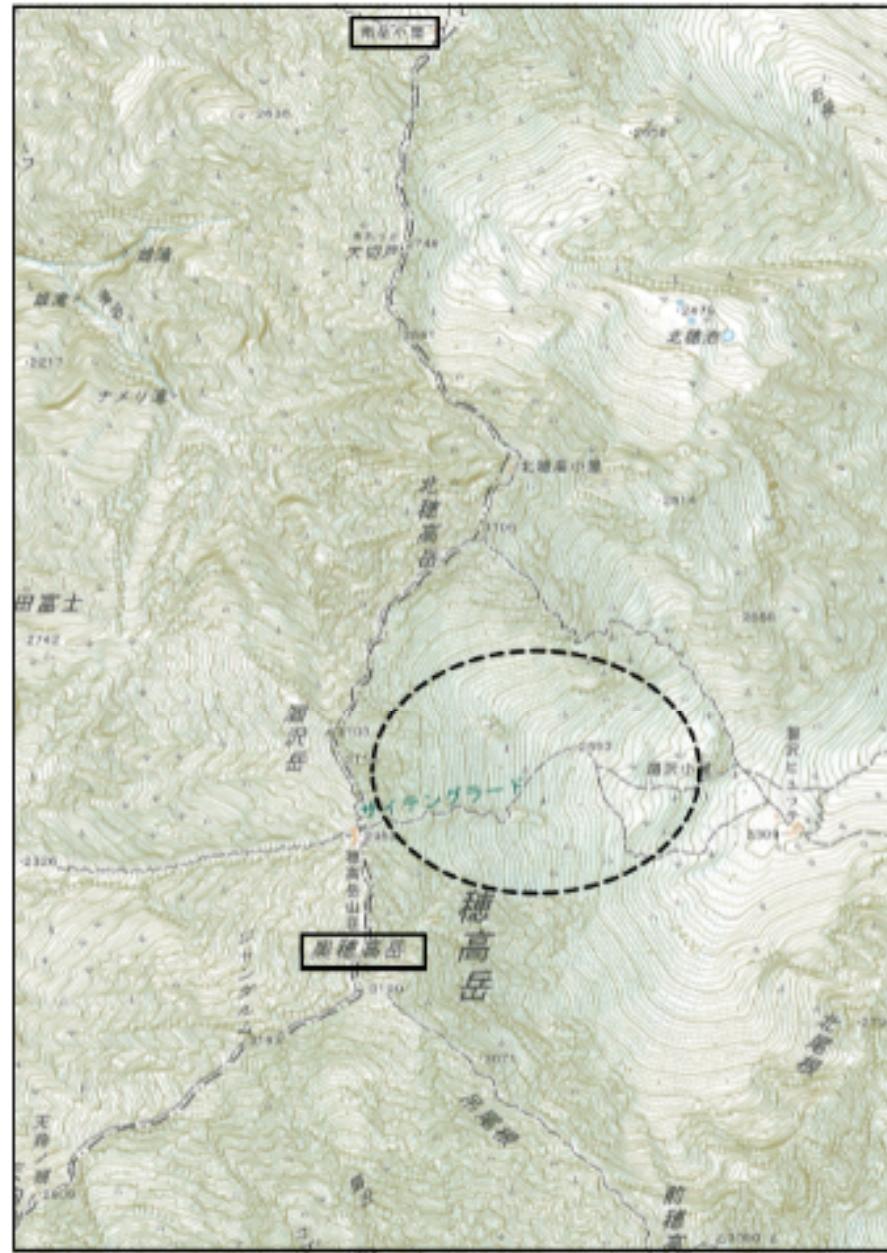
### 第二次試験 ー 記述式試験

# P59 問1





## P63 問3



1

国土地理院2014年発行2万5千分の1地形図「穂高岳」

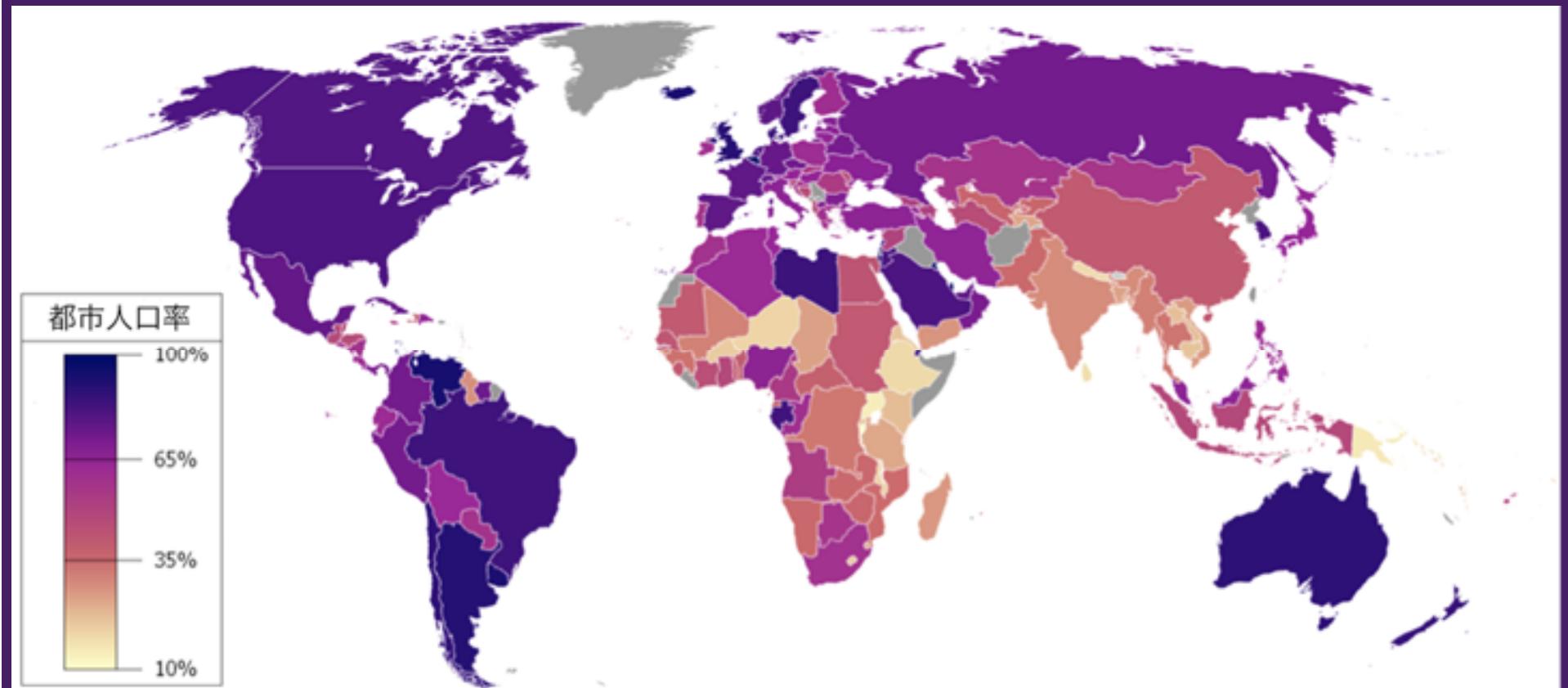


図3 図1中にAで示されている堤防の切れ目  
(○で囲まれている部分)  
(2014年撮影)



図5 図2中[ ]部分の拡大  
(「地理院地図」2016年12月出力に一部加筆)

# P73 問1



P83

図3

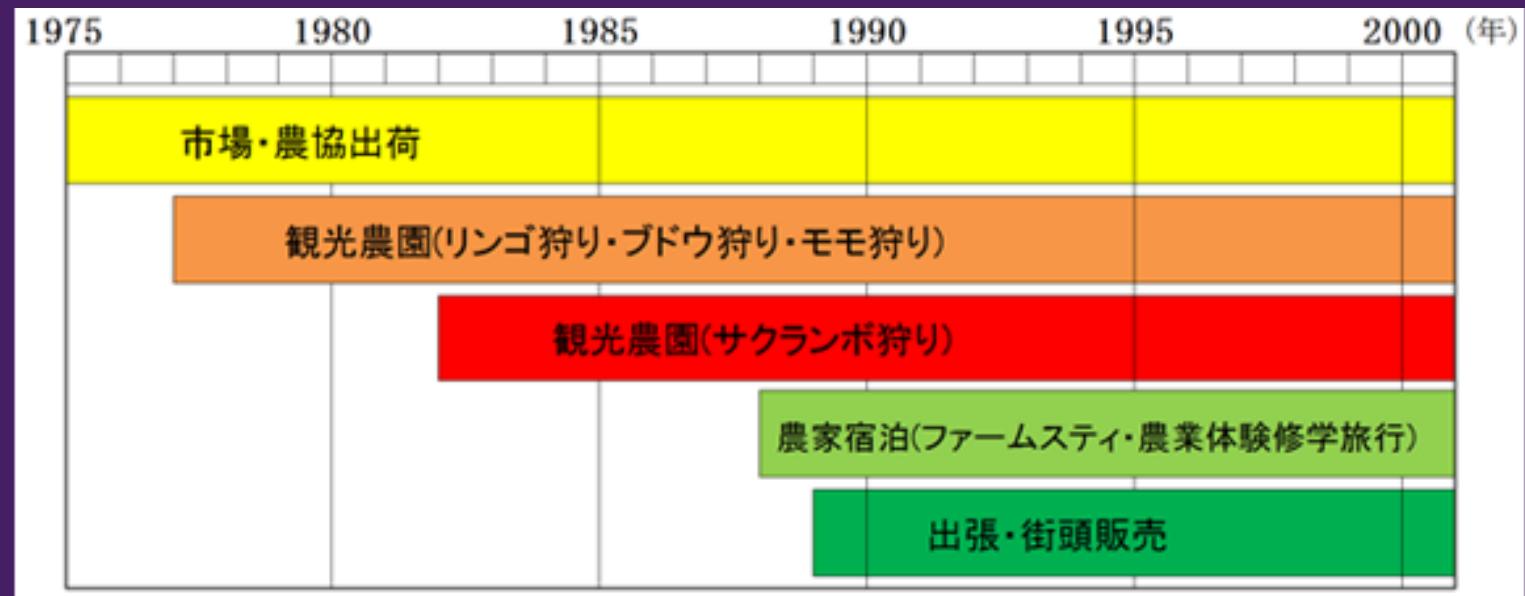
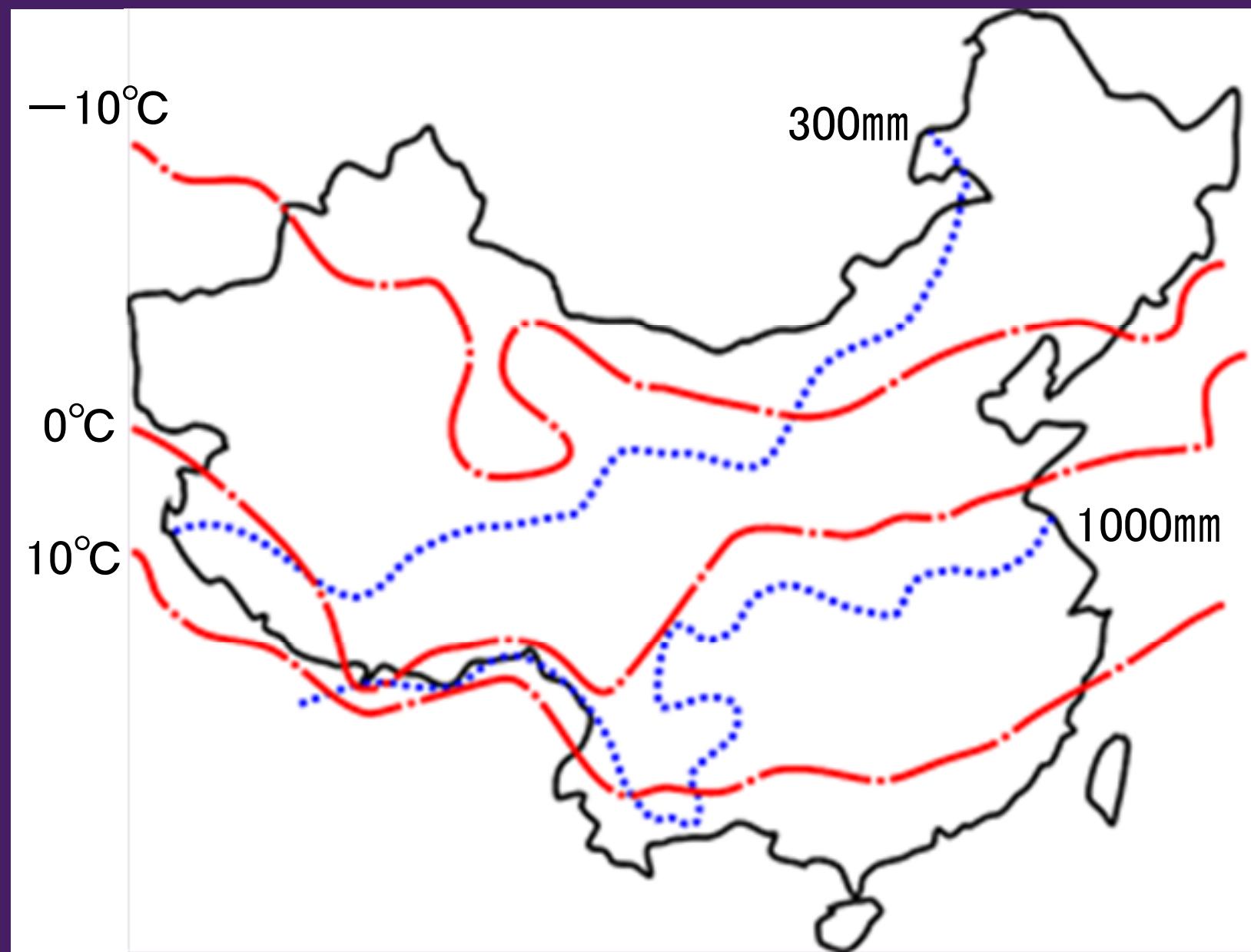


図4



P87



B: Mean temperature of January and annual precipitation in China

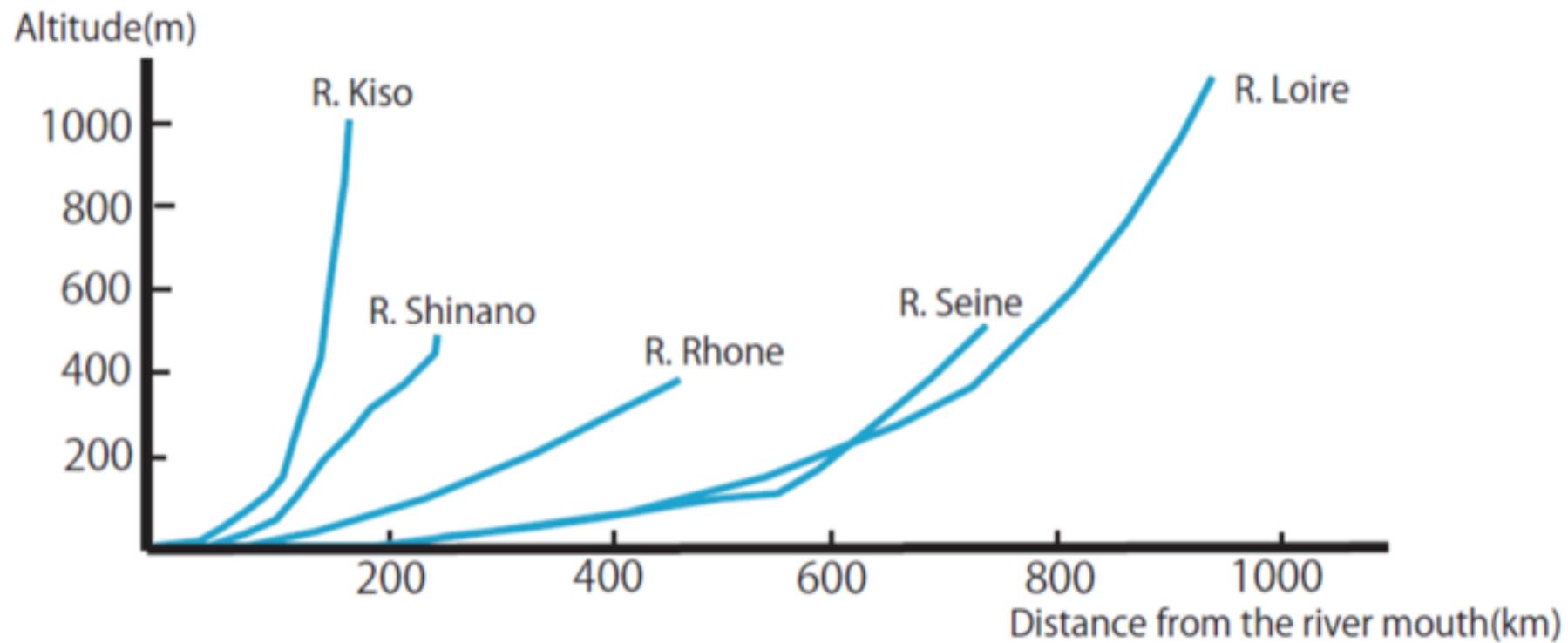


Figure 1 Longitudinal profiles of rivers in France and Japan  
(Note: The graph does not include headwaters of rivers.)

P89



**Figure 2** Climatic zones in Europe

( Introduction to Geography: People, Place & Environment . Pearson, UK )

## 第2章 過去問にチャレンジ

第三次試験 – フィールドワーク試験

# P97 資料

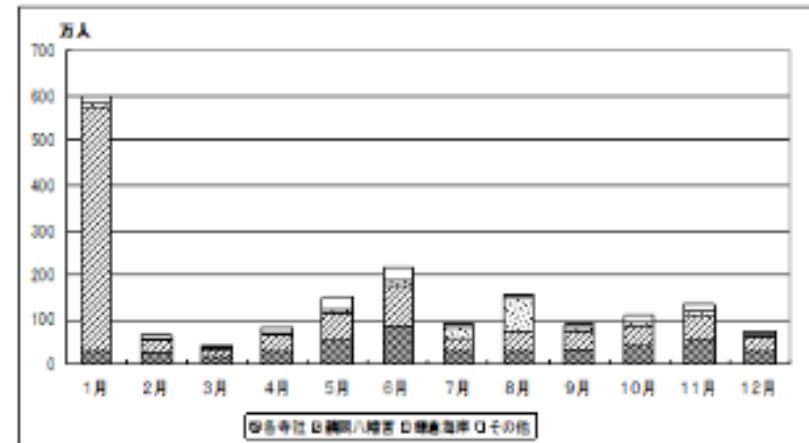
## 資料 1 鎌倉の観光と災害

鎌倉市は年間 1,800 万人余(2012 年)の人々が訪れる観光地である。なかでも、円覚寺や建長寺、鶴岡八幡宮などの寺社と鎌倉海岸(材木座海岸、由比ガ浜海岸)のある鎌倉地域は観光地「鎌倉」の中核となっている(表 3-1、図 3-1)。

表 3-1 鎌倉市における観光地別観光客数

単位: 人		(各年中)		
入込観光客数の内訳		平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
有料施設	各寺社	5,150,822	5,111,854	4,582,260
	県立近代美術館	47,710	35,054	37,948
	市立鎌倉国宝館	58,586	59,007	54,996
	市立鎌倉文学館	104,870	100,064	92,653
	県立フラワーセンター	263,025	218,502	211,011
	小計	5,625,013	5,524,481	4,978,868
無料施設	鶴岡八幡宮	9,432,700	10,197,500	10,211,500
	銭洗弁財天	1,123,500	1,062,600	888,500
	鎌倉海岸	2,189,400	2,285,600	1,679,000
	天園ハイキングコース	463,100	416,300	353,000
	小計	13,208,700	13,962,000	13,132,000
合計		18,833,713	19,486,481	18,110,868

(鎌倉市「平成 24(2012)年版 鎌倉の統計」より作成)



(鎌倉市「平成 24(2012)年版 鎌倉の統計」により作成)

表 3-1 と同様に、鎌倉市における観光地別観光客数を算出する。各寺社は主なものの合計数であり、寺社総数ではない。

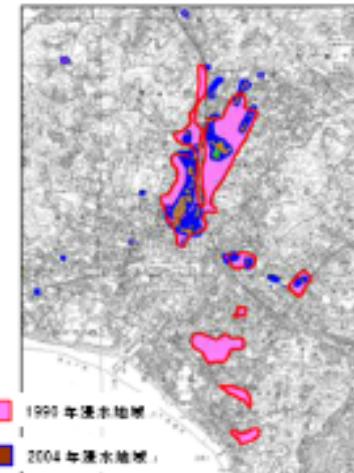
その一方で、三方を丘陵に囲まれ相模湾に面した鎌倉地域は、これまで少なからず台風などによる浸水や地震、津波による災害を被ってきた地である(表 3-2、図 3-2、表 3-3、図 3-3)。

表 3-2 鎌倉市の(1990、2004 年)浸水被害

発災・年月日	1990(H22)年	2004(H16)年
発災原因	台風 20 号	台風 22 号
床下浸水	167 戸	603 戸
床上浸水	539 戸	929 戸

※ 被害状況は鎌倉市全域。

(鎌倉市「鎌倉市地域防災計画 基礎調査」による)



(鎌倉市「鎌倉市浸水実績図」より抜粋)

図 3-2 鎌倉地域の浸水状況



(鎌倉市「津波ハザードマップ」より抜粋)

図 3-3 由比ガ浜堤防の跡

表 3-3 関東大震災における鎌倉町の主な字別報告戸数

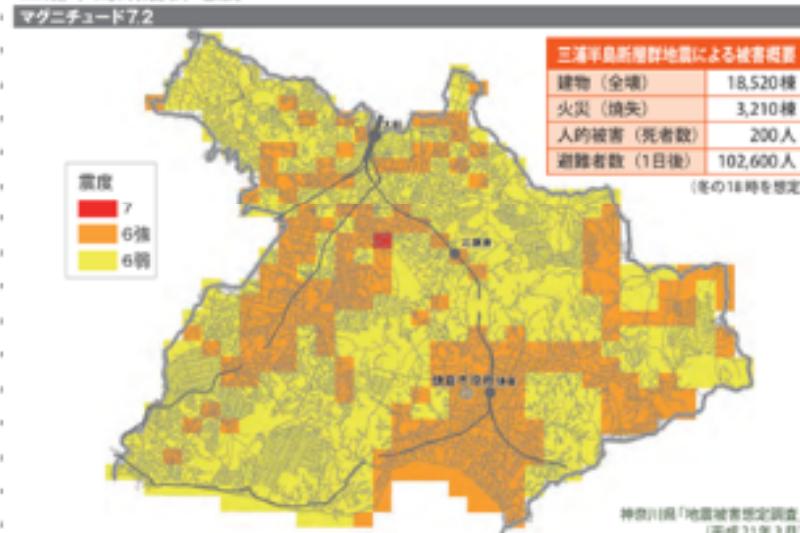
主な字名	戸数	全 戸 数	全 燃	流 失	死 者 数
雪ノ下	432	229	75	—	37
扇ガ谷	192	70	1	—	17
小町	405	123	158	—	40
大町	527	196	—	—	21
由比ヶ浜	662	176	105	—	74
乱橋材木座	607	260	1	30	59
長谷	653	161	102	30	92
坂ノ下	361	161	—	53	52
その他の字	414	87	—	—	17
合計	4103	1453	443	113	412

\* 既行市域のうち、鎌倉市域(十二所・津が寺・二室生・横内門・雪ノ下・扇ガ谷・小町・大町・御宿町)

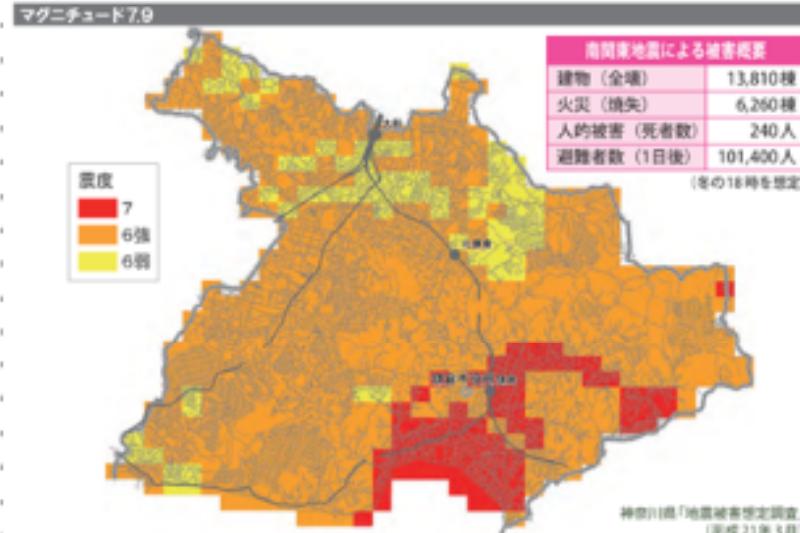
由比ヶ浜・材木座・長谷・坂ノ下・横内門・扇ガ谷・安田町・佐助・福村が網に該当。(平成 2012 年による)

こうした災害のうち、今後、発生の確率が比較的高く、諫倉市に大きな被害を与える災害として、三浦半島断層群地震と南関東地震が想定され、市ではそれらに対応する地域防災計画(地震災害対策編)を策定している(図3-4・5、表3-4)。

#### 三浦半島断層群地震 $8.2$



#### 南関東地震 $8.0$



三浦半島の北生、北武断層帯、武山断層帯活動断層を震源とし、30年以内の発生確率は5%～11%、  
大正関東地震と同じく、相模トラフ沿いを震源域とし、30年以内の発生確率は5%～1%。

図3-4 三浦半島断層群地震、南関東地震の震度と被害概要想定



#### 【レベル1津波】津波防護レベル

最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波

##### 県想定南関東地震 (マグニチュード7.9)

大正12年(1923年)関東地震の再来を県が想定したもので、到達時間が短いケースです。  
市内では、最大震度7の揺れも想定されています。

- 第1波到達時間 10～15分程度
- 市内の最大津波高 8.0m

#### 【レベル2津波】津波減災レベル

発生頻度は遙かに低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波

##### 県想定明応型地震 (マグニチュード8.4相当)

神奈川県の津波浸水想定のうち、市内の浸水範囲が最大となるケースで、明応年間(1492～1501年)に発生したとされる地震をもとに、県が想定したものです。

- 第1波到達時間 50～60分程度
- 市内の最大津波高 12.9m

##### 県想定慶長型地震 (マグニチュード8.5相当)

神奈川県の津波浸水想定のうち、市内の津波高が最大となるケースで、慶長9年(1605年)頃に発生したとされる地震をもとに、県が想定したものです。

- 第1波到達時間 40分程度
- 市内の最大津波高 14.5m

##### 南海トラフを震源とする巨大地震 (マグニチュード9.1相当)

近い将来、大きな地震の発生が懸念されている南海トラフで、東日本大震災クラスの巨大地震・津波が発生した場合を想定しています。国(中央防災会議)が平成24年8月に公表した11ケースのうち市内への影響が最大となるものを採用しています。

- 第1波到達時間 60分程度
- 市内の最大津波高 9～10m

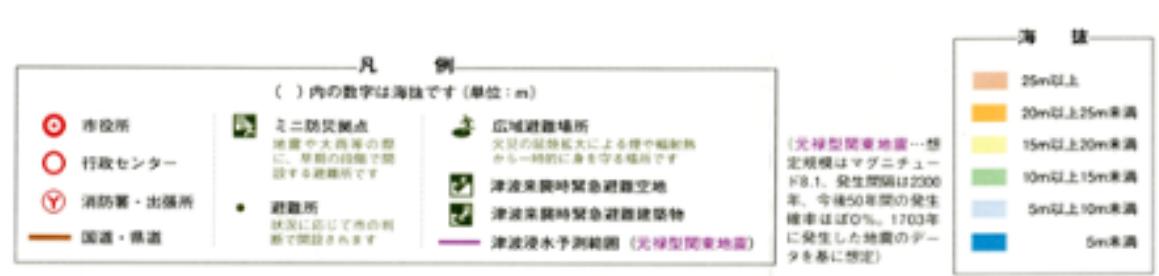
図3-5 諫倉市に津波が予想される地震と浸水範囲想定

表3-4 「諫倉市地域防災計画」中の被災者等を対象にした項目

- 地域の実情に合わせた津波避難路・避難場所・避難標識の整備を推進します。
- 津波ハザードマップや地理的条件等を考慮し、安全かつ迅速に避難できる津波避難ビル(津波来襲時緊急避難建築物)の指定・協定の締結を進めます。
- 災害発生により県宅の手度を失い、駅周辺、市街地、社寺、名所旧跡などに滞留している人に対し、一時滞在施設を提供します。
- 周辺の土地に不案内の帰宅困難者に的確な行動を促すため、十分な情報提供を行います。

(図3-4・5、表3-4はいずれも諫倉市「地域防災計画(地震災害編)」の主な政策ポイントによる)

## 資料2 鎌倉地域海拔マップ



(鎌倉市総合防災課「鎌倉市海拔マップ(平成29年8月作成)」より抜粋)

# 参考資料

ガイドライン

P135

	Points	Lines	Areas	Best to show
Shape		possible, but too weird to show	cartogram	qualitative differences
Size			cartogram	quantitative differences
Color Hue				qualitative differences
Color Value				quantitative differences
Color Intensity				qualitative differences
Texture				qualitative & quantitative differences

原図は、Jacques Bertin(1967) : *Semiologie Graphique* による。